

教育改善活動の成果徐々に

金沢高専「授業アンケート」結果報告

高等教育機関の組織改革などに伴い、平成17年度以降から高専においても7年に1度の第三者評価受審が義務づけられている。金沢高専はこれが義務化される初年度に第三者評価を受審するため、その準備の一つとして、KTC教育評価委員会が平成15年度から在校生や教職員、卒業生、卒業生を受け入れている企業を対象に、アンケートによる教育の点検評価を実施し、昨年、「大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしていると判断する」との第三者評価を得た。

今年の2月に実施した学生を対象とした「授業アンケート」および学生と教職員を対象とした「総合アンケート」の平成17年度分の調査結果が6月22日に報告された。

これに先立ち、新学期に配布する学習支援計画書にその結果を反映させるため、「授業アンケート」結果が、3月初旬に速報版として先生方に届けられている。また、この速報版は、先生方の自己点検自己評価のためのデータとしても活用が図られ、「教育の抱負及び実施に関する報告書」と次年度の「教育改善への取組と今年度の目標」が校長に提出され、冊子にまとめられている。

今回の報告会では、アンケート結果をまとめたアイ・ポイントの池田晋代表取締役から自由記述の部分を除くすべてのアンケート結果が報告された。特に、「総合アンケート」に関しては、これまで蓄積されてきた3年間の結果から見えてくる傾向についても報告が行われた。

学生の授業に対する満足度や授業への興味などは15年度よりも全体的には年々よい傾向がみられるとの評価が得られた。これは、先生方が過去2年間、アンケート結果に基づいて学生にとってわかりやすい授業を実施するための授業改善に取り組んできた結果である。また、本校や池の平でのFD研修会や年度末に実施している教育成果発表会などの教育改善活動の成果が徐々に現れていると推測される。

しかし、低学年の授業に対する満足度は高いが、上級生の満足度が低いといった問題点や授業に対する満足度は高いが学校に対する満足度が低く、学科によって大きく異なっているとの指摘があった。また、「学校が好き」は40%で、年々その数値が低下しており、今後、知恵を出し合って、学生自らが明確な目標を設定し、その目標達成のために必要な知識を自学自習し、学校が好きで学校中心の生活をするための教育の仕組みを構築しなければならない。

アンケート調査は、本校の現状を把握し、今後の改善を図るための情報収集を主目的としていることは言うまでもないが、教職員にも本校の評価を問うことによって、学生との意識の違いを見だし、学生のための学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的としている。

さまざまな視点からのヒントを得ながら、今回のアンケート結果報告会で浮かび上がった問題点に関して、8月初旬に実施されるFD研修会において、原因究明と対策についてグループ討議などで検討していきたいと考えている。また、12月には第2回目のFD研修会を実施し、いっそうの教育の改善を図っていく予定である。

このアンケートの結果は、本校のホームページ等において公表する予定であるので、ここでは今回新設した設問の「学生の勉学への取り組み姿勢」に関するアンケート結果のグラフのみを示すことにする。

この結果から、学生は「より高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っている」に対しては、「そう思う」が41.1%、「どちらかと言えばそう思う」が35.1%であり、76.2%と非常に多くの学生が積極的に知識や技術を身につけたいと思っていることが分かった。また、「技術者として社会に役立ちたいと思っている」「モノづくりに対する興味を持っている」は同じような傾向であり、65%近くの学生がそ

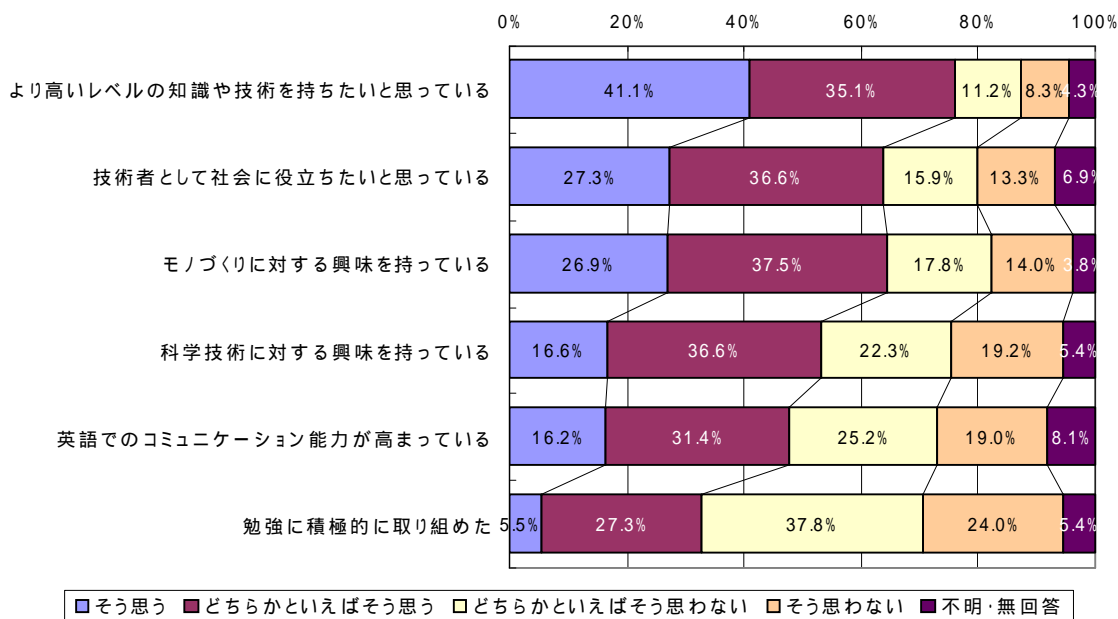
のようなニーズを持っていることが明らかとなった。また、半数以上の学生が「科学技術に対する興味を持っている」と回答している。

これらの結果から、学生たちは知識や技術、モノづくりや科学技術に対する興味を持っており、技術者として社会に役立ちたいと考えているようであり、前向きな姿勢を持っていることが確認できた。しかし、学生は自分自身のレベルを高めたいと思いつつも積極的に授業に取り組めていない実態も浮き彫りになった。

アンケートを開始して3年、このように新たな設問で見えてくるものがあることや、すでに傾向が明らかになったものもあるため、設問の内容などの見直しを図りながら、今後も企画部CS室の協力を得てアンケートによる教育の点検評価を実施し、いっそうの教育改善に努めていく所存である。

(高専 天日)

勉強への取り組み姿勢



KTC総合アンケート結果より